

(第3種郵便物認可)

大越(東海大四)回転制し2冠



16年ぶり快挙 3位に及川(第一)

全国高校

スキー

第4日

6日、秋田県鹿角市の花輪スキー場などで3種

目を行った。アルペン男子は2回目のラップを取った大越(東海大四)が5位入賞。複合子回転は1回目首位の大越(東海大四)が入った。ノルディック半飛躍で首位の楓(かえ)が逃げ切り、4日の大回転のクラシカル走法によるで、尚樹(札幌商)は6位、同3位の加藤大(下

川商)は7位だった。最終日の7日は距離の男女リレー、アルペン女子回転が行われる。

▽アルペン男子回転
①大越龍之介(東海大四) 1分40秒63
②山本(50秒41、50秒22) 1分40秒63
③及川(51秒68、50秒64) 1分42秒32
④石井(北照) 1分42秒38(52秒42、49秒96)
⑤石井(北照) 1分42秒55(52秒23、

50秒32) ⑤石山(北照) 1分42秒88(52秒02、50秒86)
⑥高橋(群馬・渋川) 1分43秒76(52秒10、51秒66)
⑦鈴木雄(新潟・八海) 1分43秒89(52秒37、51秒52)
⑧坂田(岐阜・岐阜) 1分44秒09(52秒73、51秒36)
⑨田中(北海学園札幌) 1分44秒38(52秒54、51秒84)
⑩斎藤(北照) 1分45秒69(54秒09、51秒60)
⑪内(北海学園札幌) 1分45秒75(52秒75、53秒00)
⑫大村(東海大四) 1分45秒92(53秒75、52秒17)
⑬橋(富良野) 1分46秒77(54秒87、51秒90) ⑭吉田(七セ) 1分46秒85(54秒29、

今季目標の「世界」へ弾み 大越

全日本のジュニアの選手として海外での勝利もある大越が、「勝つて当然」と周囲から見られるプレッシャーをはね返して回転も制し、アルペン2冠を達成した。急斜面の続く難コースを果敢に攻めた1回目は、2位に1秒27差をつけた。2回目は緩斜面でのボールの間隔が狭く「次々と迫ってくる感じで難しかった」と言いながらも、2位とのタイム差を広げた。2回目は及川(札幌第一)にラップを奪われた。悔しくないはずはないが、2回ともラップを取った完全優勝でも「うれしくない」と表情を硬くした。2日前の大回転とは大違い。「きょうはホッとした。今考えれば、大回転のときは緊張していた。そんな自分をまかしながらかやっていたと思う」と、吹っ切れたように笑顔も見せた。男子アルペンの2冠は16年ぶりの快挙。それでも大越は「過去に10人もいるんですよ」と淡淡々としており、決して浮かれてはいない。「この勢いを消さないまま世界ジュニア選手権に近づきたい」。今季の最大の目標であるカナダでの世界ジュニアへ向け弾みをつけた2戦だった。